



バラギ湖と四阿山

令和元年度孀恋郷土資料館友の会総会開催	P-1
郷土資料館友の会宮崎光男新会長挨拶	P-1
郷土資料館ボランティアガイド会黒岩秀二会長選任	P-2
郷土資料館関俊明新館長赴任されました	P-2
郷土資料館職員神保香代子さん着任されました	P-2
令和元年度「孀恋学」講座開催	P-2
令和2年度ボランティアガイド養成講座開催	P-3
展示室プロジェクションマッピング設備完成	P-3
特別企画展「生誕200年記念中居重兵衛」開催	P-3
孀恋村の文化財「芭蕉の句碑」	P-4
お知らせ	P-4

編集 孀恋郷土資料館友の会 2020年6月発行 第 31号

孀恋郷土資料館友の会だより

孀恋郷土資料館「友の会」（宮崎光男会長）では、令和元年度から令和2年にわたり様々なイベントを企画、活発な活動を繰り広げてまいりました。今回の「友の会だより」第31号では、令和元年度・令和2年上半期のイベントや活動の様態をダイジェストとしてご紹介いたします。

令和元年度孀恋郷土資料館友の会総会が開催されました

令和2年3月24日、郷土資料館3階展望室にて令和元年度総会が会員13名の出席をいただき開催されました。令和元年度事業報告及び収支決算、令和2年度事業計画案及び予算案が審議され、いずれも承認をいただきました。令和2・3年度の新役員が選任されました。資料館友の会会長には宮崎光男氏が新たに選任されました。前会長の唐沢忠夫氏におかれましては4年間友の会運営、活動にご尽力をいただきましたこと厚く御礼申し上げます。（欠席の会員の皆様方には総会資料を送付させていただきました。）



孀恋郷土資料館友の会宮崎光男新会長挨拶



唐沢忠夫さんから4月に孀恋郷土資料館友の会会長のバトンが廻ってきました。友の会は、設立から22年が経ちます。剪定作業、お月見の会、村内外の研修視察、諸講座など資料館と協力合せて数々の事をしてきた歴史のある会です。諸先輩の方々が築き上げてきた会です。この思いを大切にしながら進めていきたいと思っています。今年は、新型コロナウイルス対応のため、郷土資料館自体の運営や活動そのものが自粛されたり、制約されたりしています。その中で友の会も出来る範囲で協力し資料館と共に活動が出来ればと考えています。会員皆様方の協力を得ながらよりよい会になるようにしていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願い致します。

宮崎光男

郷土資料館ボランティアガイド会新会長に黒岩秀二氏が選任されました



楽しい仲間達で居心地の良い集まりです。いま会員15名が老若男女年齢も様々な入館者の方々に主に「天明三年浅間やけ」のことを語っています。普段の活動は積極的に「おしゃべり」と「仲間づくり」そして「研修」最後に「ガイド」です。ガイド活動に興味があり参加したいな～と思う方は資料館へご連絡ください。もっともっと感動する発見と充実感が必ず得られます。毎月25日13時30分はガイド全員集合日です。お気軽にキテネ! 黒岩秀二

孺恋郷土資料館関俊明新館長が就任されました



4月から勤務させてもらうことになりました。講座等で何度か来させてもらっていたので、本当にありがたい縁を頂戴したと感じております。資料館のコンクリートの打ちっ放しの建物が、時間が経っても古さを感じさせないデザインでとても素敵だと感じていて、友の会・ガイド会の皆さんとともにこの資料館を守り・盛り上げ、遺跡公開に向けた発掘調査を進めていけることを楽しみに仕事をさせてもらおうと思っています。どうぞ、宜しくお願いいたします。関俊明

郷土資料館職員神保香代子さんがあたらしく着任されました

5月より会計年度任用職員として、孺恋郷土資料館でお世話になっています。地元に戻り孺恋村の豊かな自然と周囲の方々の温かい人柄に触れ、郷土の良さを日々実感しています。そして、孺恋村には沢山の貴重な文化財があることに驚いています。資料館の仕事を通じ、孺恋村の力強い歴史と貴重な文化財を、多くの方々に知っていただけるよう頑張ります。 神保香代子



令和元年度「孺恋学」講座が開催されました

令和元年度「孺恋学」講座が開催されました。

・2月1日(土) 「だんごの魅力」 =まゆ玉とだんごのちがいは= 講師:孺恋郷土資料館友の会ボランティアガイド会長(旧) 宮崎光男氏

・2月8日(土) 「三原郷34観音札所をめぐる」
講師:浅間山火山博物館ボランティアガイド・浅間山北麓ジオパークガイド 嶋村 明氏

計76名の聴講をいただきました。なお、予定されていた、3月7日「浅間の嶽に一伊勢物語を読む」講師尾上友紀氏及び3月21日「浅間火山の活動の歴史(仮題)」講師安井真也氏各講座につきましては新型コロナウイルス感染防止のため中止となりました。



令和2年度のボランティアガイド養成講座が開かれました



4月11日(土曜日)資料館ボランティアガイド養成講座が開催されました。関館長のあいさつに始まり、宮崎光男友の会会長の講師により新プロジェクションマッピング、各展示ガイドの講習を行いました。

当日は10名の参加者があり、新規2名の参加がありました。資料館ボランティアガイド要員の充実が期待されます。



郷土資料館展示室にプロジェクションマッピングシステムが完成しました

3月にジオパークを核とした整備事業の一つとして、資料館1階展示室にプロジェクションマッピングシステムが完成いたしました。いろいろと応用が効く設備で今後の活用が期待されています。

2階展示スペースには「浅間山北麓ジオパーク」に関する説明展示が新たにできました。



特別企画展「生誕200年記念中居屋重兵衛」が開催されています



嬭恋郷土資料館特別展示室にて「生誕200年特別企画展 横浜開港の功労者 生糸貿易の先駆者 中居屋重兵衛」が令和2年4月2日(木)～10月25日(日)の予定で開催されています。

本年は群馬県嬭恋村出身で生糸貿易を通じ横浜開港に貢献した豪商・中居屋重兵衛(1820～61年)の生誕200年に当たります。嬭恋村と友好交流協定を結ぶ横浜市中区と横浜開港資料館が協力し、浦賀への黒船来航を機に国防強化を掲げ執筆した火薬専門書「集要砲薬新書」(1855年)など、貴重な史料がこの特別企画展に公開されています。重兵衛は横浜で開港の1859年に中居屋を開業。主力商品の上州生糸が高品質であったことを追い風に扱い量や売り上げを伸ばし、最盛期には生糸全輸出量の過半数を占めたとされています。

(3月30日付神奈川新聞記事より抜粋)



連載(3) 孺恋村の文化財「芭蕉の句碑」(村指定重要文化財)



孺恋村大笹地区 大笹神社入口に
建立されている句碑です。

「雲雀啼(ひばりなく) 中の拍子
(ひょうし)や きじの声(こえ)
ばせを 翁(おう)」

と刻まれています。雲雀の細い声に
拍子をとるかのように甲高い雉の
声が聞こえるという意味で、芭蕉翁
元禄3年(1690年)の作、句集「猿蓑」
に載っています。

碑の背面には世話人の名が8人書き
連ねられており、いずれも地元の俳
人です。この句碑の開眼連歌が催さ

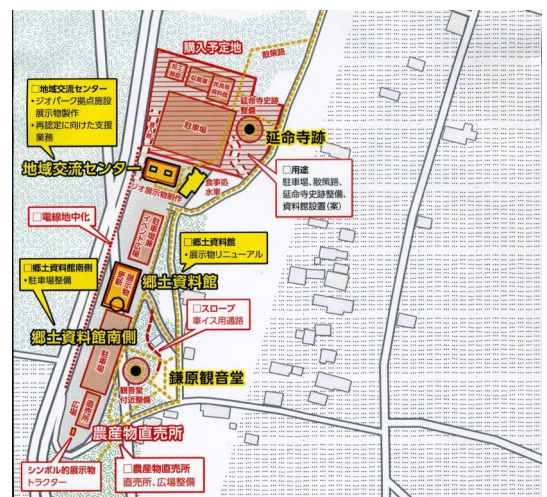
れた時、竹畑(草津の俳人坂上竹畑)の他二十余名の参加が記録されていることから当時の郷土文化がかなり充実していたことがうかがえます。この句碑は芭蕉の俳句の作り方「蕉風」を正しく伝えようとしたと考えられています。

お知らせ

・孺恋郷土資料館は新型コロナウイルス感染防止のため休館中でしたが令和2年5月21日から通常通り開館いたしております。なお、新型コロナウイルス感染防止措置にご協力をおねがいいたします。

・郷土資料館南側、観音堂隣地に新しく農産物等直売所の建物の工事が進んでいます。令和2年7月にオープン予定です。この他にも、周辺の散策路の整備、延命寺跡の整備も計画されています。

・8月7日(金)に予定していました友の会懇親会は新型コロナウイルス感染防止ため中止となりました。



・国道292号(志賀草津高原ルート)は、令和2年5月12日より通行止め解除となりました。但し、オートバイ・オープンカー・自転車・徒歩の通行は出来ません。

・本年度の郷土資料館周辺の落ち葉の清掃(4月18日予定)及び草刈、せん定(6月9日予定)のボランティア作業は新型コロナウイルス感染防止対策により中止となりました。